

## 第二回検討会における主な意見について

### 【提案型市場調査の検討方法について】

以下のような意見交換がなされ、リーフレット及びアンケートの内容を精査するとともに、調査対象企業についても必要に応じて追加するなど、今後の事業推進の判断を見通したなかで、提案型市場調査を実施することとされました。

#### ○リーフレットについて

- ・彩都の優位性を明確に盛り込むべき。
- ・想定している土地利用計画以上の魅力的で実行可能な提案について。

⇒彩都の将来像を変えるような内容は難しいが、魅力的なものは受け入れたい。(回答)

- ・緑地の確保などが必要となり、実際に使える面積を提示する必要がある。

⇒誤解のないようにヒアリング等で説明していきたい。(回答)

⇒実際に平地を求める声も多かった。(実績)

#### ○エンドユーザー向けアンケートについて

- ・アンケート調査については、意思決定できる者に送付することが必要である。
- ・サンプル数を増やすのであれば対象規模を引き下げる方向もある。
- ・帝国データバンクの対象企業とは別に大阪商工会議所や関西経済連合会の会員企業も対象としてはどうか。

- ・製造関連のサービス業（検査業務など）も対象にしてはどうか。

- ・別途大学向けのアンケート調査も検討してはどうか。

- ・ライフサイエンス関連分野については、レンタルラボへの進出意向を把握する等、様式を検討してはどうか。ライフサイエンス関連分野を対象に2種類の様式を作成・送付し、希望する様式で回答してもらうこともある。

⇒検査等のサービス業を追加する方向で検討するが、サンプル数はこの程度を考えている。

大学向けのアンケート調査については、大阪府の関係部局とも連携しながら対応したい。なお、ライフサイエンス系のレンタルラボのニーズを押さえるような工夫をしたい。(回答)

⇒大学研究機関へのアンケート調査も実施した。(実績)

#### ○開発者向けアンケート

- ・外資系のファンドについて声をかけるということはしないのか。
- ・具体的な提案に関するスケジュールを押さえることが必要である。
- ・計画推進の判断に際しては、立地の確実性をベースに、状況に応じて事業スキーム等について様々な工夫が必要となる。リスク軽減も含めて色々なパターンを考えることが重要である。

⇒開発者へのヒアリングを通じて、様々な事業スキームについても検討していきたい。(回答)

⇒ゼネコン等から、造成計画や工程等が示され、エンドユーザー紹介等の協力する意向が確認された。(実績)

#### ○彩都の優位性など

- ・他地区との比較をするときには、現状の数字を見るか、将来予測の数字を見るのかで比較に不公平が出ないようにすること。

- ・モノレールは万博公園駅での乗り継ぎが不便。

⇒できるだけ工夫しているが、現時点では彩都線の本数が環状線より少ない。(回答)

- ・モノレールの延伸計画は。

⇒中東部地区の開発熟度に合わせて整備予定。(回答)

- ・モノレールの利用について、乗換時間を含んでいない数字であることを明示すべき。

- ・清水高架橋の着工時期は。

⇒今年度の予算が議決されれば、今年度着工予定。(回答)

#### ○事業推進の方針について

- ・UR、大阪府、関係機関の意向は重要なポイントである。計画推進の判断に必要な具体的な提案内容や時間的余裕等を整理しておくことが重要である。

⇒具体的な事業スキームや提案内容について整理するとともに、エンドユーザーの意向把握を行い、開発者等に対するヒアリングを実施するなかで、種々のバリエーションを含めて判断をしていきたい。(回答)